

# 「カヤバが構築しているIoTプラットフォーム」

「新時代のMESサービスの基礎構築」(p. 7)に記載

DX推進部 瀧野慎介

## 1

### KYB-IoTプラットフォーム概要

近年、カヤバでもデータやデジタル技術を活用した案件が多く見られるようになってきました。

これらの増加に伴い、ビッグデータを継続的に収集・保管する「データ収集基盤」や、BI (Business Intelligence), AI (Artificial Intelligence) といったデータ活用を加速させるための「データ分析基盤」が必要となります。

そこでDX推進部では、カヤバ内で広く正しくデジタル技術を活用できるように、「データ収集・分析基盤」となるIoTプラットフォーム構築を進めています。KYB-IoTプラットフォームの概念図を図1に示します。

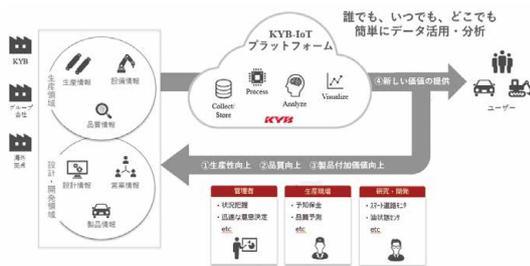


図1 カヤバが構築しているIoTプラットフォーム

雲の形をしている部分がKYB-IoTプラットフォームで、AWS (Amazon Web Services) 様のクラウドサービスを用いて構築しています。

カヤバや関係会社が持つ「生産」「設計・開発」領域 (例: 工場設備や開発中の実験) のデータを「収集、加工、分析、可視化」し、社外ユーザにあたるお客様へ「新価値の提供」、社内ユーザへ「生産性」「品質」「製品付加価値」の向上を図っています。

## 2

### KYB-IoTプラットフォームの主な機能

今後大きな効果を生み出していくための3つの技術的な機能を紹介します。

#### ①収集機能

収集に多くの工数をかけずにデータの分析や活用ができるように、部署ごとにあるデータ収集・保管の仕組みを構築、ビッグデータを継続的に集めて保管する機能となります。

#### ②改ざん防止機能

システムへの全操作ログを記録します。さらに万が一改ざんがあった場合でも、自動で履歴を残した上でアラートメールを送信する機能も備えています。これによって、社内でのデータ管理・アクセスの透明性を確保し、お客様に「安心」「安全」を提供します。

#### ③分析管理機能

AI開発は「ソースコード、データ、パラメータ」の3つ揃って初めて再現性を担保できます。

運用中にもデータは変化するため、それらをセットで管理し、継続的に再学習とモデル変更ができる基盤を構築することで長期運用を実現します。

また、KYB-IoTプラットフォームに保管された情報に対し、Webブラウザ上で様々な可視化や簡易的な分析を行える環境を提供することで、普段の業務の中で誰もが当たり前のようにデータ分析を行えるよう、データ活用人財育成も合わせて実施していきます。